Letter to the Editor

第2回「質量分析夏の学校」開催報告**2nd Summer School of Mass Spectrometry**

佐々木智啓*
Tomohiro SASAKI*

大阪府立大学大学院理学系研究科分子科学専攻 *Department of Chemistry, Graduate School of Science, Osaka Prefecture University, Sakai, JAPAN*

編集長殿、ならびに会員諸氏

第2回質量分析夏の学校は、2007年9月14日(金)～15日(土)の2日間にわたり、大阪府立羽衣青少年センター(大阪府高石市)において行われました。関東、北陸、関西各地区から38名の学生、大学院生および3名の若手研究員が参加者として集まり、グループセッションや口頭発表を通してお互いに議論を交わしました。また、指導役として5名の先生にお越しいただきました。

夏の学校は、質量分析にかかわっている学生、大学院生および若手研究者を対象とした勉強会として企画されており、学会や他の研究会とは異なる以下のような特徴があります。

- ・参加者は学生、大学院生および若手研究員に限る
- ・学生、大学院生が企画・運営を行う
- ・合宿形式により行われる

夏の学校では、自分の研究内容を異分野の人とディスカッションすることで学問的に刺激しあい、それを通して研究意識と研究内容を向上させ相互のつながりを深めることを目的としています。そのため参加者全員が口頭発表あるいはポスター発表を行い、議論しあうことにしています。発表内容は学会発表のようなまとまった内容である必要はなく、研究目的や実際にどのようなことを行おうとして現在どこまで達成されているのか、またどのようなことで苦労しているのか、という点を異分野の人にもわかるように説明してもらうようにしています。

今回の夏の学校のメインテーマは「MSから始まるコミュニケーション」でした。このメインテーマには、大学4年生でも積極的に参加でき、わからないところや聞きたいことを気軽に質問できる雰囲気を作っていくという意味があります。はじめの挨拶などで、参加者全員に恥ずかしがらずに積極的に議論を行い有意義な時間を過ごして欲しい旨を伝えた結果、グループセッションではもちろんのことオーラル発表では去年よりもたくさん質問があり活発な議論がなされました。

また、今年も第一線で活躍されている研究者を講師として迎え、質量分析が実社会でどのように用いられているのか講義をしていただきました。

時間割 (プログラム)**1日目, 9月14日(金)**

入学手続き

入学式(校長挨拶・校則と施設の説明)

1時限目 グループセッション第一部&第二部(ポスター発表)

2時限目 オーラル発表1

久保 歩(大阪大学大学院理学系研究科)

「マルチターンタンデム飛行時間型質量分析計 “MULTUM-TOF/TOF”」

* 第2回質量分析夏の学校・校長

佐々木智啓(Tomohiro SASAKI); 大阪府立大学大学院理学系研究科分子科学専攻(〒599-8531 堺市中区学園町 1-1); e-mail: t_sasaki@c.s.osakafu-u.ac.jp

(Received November 15, 2007; Accepted November 15, 2007)

- 3 時限目 オーラル発表 2
佐々木智啓（大阪府立大学大学院理学系研究科）
「電荷逆転質量分析法を用いた励起中性 CH_2X_2 ($\text{X}=\text{Cl}, \text{Br}$) の解離機構」
- 4 時限目 特別講演
和田芳直先生（大阪府立母子保健総合医療センター）
「質量分析と異分野コミュニケーション」
夕食
- 5 時限目 オーラル発表 3
中村俊介（京都大学大学院農学研究科）
「植物におけるインドール-3-酢酸の微量分析」
- 6 時限目 オーラル発表 4
馬上謙一（東京大学大学院理学系研究科）
「隕石中の希ガス同位体から見る二段階宇宙線照射」
放課後「ナイターセッション」

2 日目, 9 月 15 日 (土)

- 朝食
- 1 時限目 オーラル発表 5
網干貴子（京都大学大学院農学研究科）
「LC/MS を用いたハスモンヨトウにおける脂肪酸代謝物の追跡」
- 2 時限目 オーラル発表 6
浅川大樹（山梨大学クリーンエネルギー研究センター）
「顔料の MALDI 測定における新しいマトリックスの検討」
- 3 時限目 グループセッション第三部（グループ代表者による口頭発表）
卒業式
レクリエーション「バーベキュー」

グループセッション・オーラル発表

今回の夏の学校でも参加者が発表や議論を行う場としてグループセッション（ポスター発表）とオーラル発表が行われました。グループセッション第一部&第二部では参加者が 7 人 1 組のグループに分かれて、そのグループ内でそれぞれポスター発表を行いました（写真 1）。また、今回の新たな試みとしてグループセッション第三部が行われました。第三部ではそれぞれのグループから代表者を選出してもらい口頭発表をしてもらいました。

写真 1. グループセッション

第2回「質量分析夏の学校」開催報告

写真2. オーラル発表

オーラル発表は発表時間15分・質疑応答時間15分で行われ、7人が発表を行いました(写真2)。グループセッションとオーラル発表のどちらにおいても参加者全員が熱心に耳を傾け、積極的に質問をする場面が多く見られました。今回はオーラル発表中の質問が去年よりもたくさんあり、とても活発な議論が繰り広げられました。参加者がすべて同世代ということもあり和やかな雰囲気の中で異分野交流ができました。参加者の意見としては、「他の分野の話を知ることができた」、「これからの自分の研究に対する姿勢がもっと積極的になれると思ったので良かった」などがありました。また、「受けた質問で答えられなかったものについて後日きちんとした回答が得られるようなシステムを作って欲しい」という意見もありました。反省点が残るものの、これは参加者が真剣かつ積極的に取り組んでいる結果を表しているのではないかと考えており、夏の学校の目的である参加者同士が学問的に刺激しあう交流を深めるということが達成できたのではないかと考えています。

特別講演

今回は1日目の4時限目に和田芳直先生(大阪府立母子保健総合医療センター)に「質量分析と異分野コミュニケー

写真3. 集合写真

ション」という題目で特別講義をしていただきました。他の研究会や学会などで行われる研究成果の発表とは違い、実社会で質量分析がどのように使われているかというお話で、他の学会や研究会とは異なる雰囲気も手伝って、講師の先生に対する質問も積極的に寄せられました。

ナイターセッション・レクリエーション

参加者同士の交流をより深める場として、1日目の夜にナイターセッション、2日目の昼にレクリエーションを行いました。レクリエーションは大阪府羽衣青少年センター野外炊さん場をお借りしてバーベキューを行いました。グループセッションや口頭発表に続き、これらの場でも活発な意見交換がなされました。参加者同士話が尽きることなく、とても楽しい時間となりました。

最 後 に

今回夏の学校に参加し同世代の人たちと議論し合い刺激し合うことの重要性、またそのようなことができる横のつながりを作る重要性を実感しました。なぜなら、自分の研究について新たな課題を発見するチャンスになり今後の研究意識の向上につながるとともに、他分野の研究内容に触れることで新たな知識や考え方を吸収できたからです。また今後、学会発表などで会った場合に、そこで再び互いの研究について議論できるからです。

今回の夏の学校では去年に比べてオーラル発表での質問がたくさん出たことから、非常に有意義な勉強会になったと思います。今後も夏の学校が勉強や交流をする場として発展し続け、一人でも多くの方が参加することを願っています。

最後になりましたが、夏の学校を開催するにあたり多大なるご協力とご支援をいただいた日本質量分析学会、諸先生方、特別講義を快く引き受けてくださった和田先生、および夏の学校を盛り上げてくださった参加者皆様に、この場を借りまして今一度厚く御礼申し上げます。